

関西大学総合情報学部の設定理念等について

1 総合情報学部の設定理念

総合情報学部が開校した1994年ごろ、コンピュータの利用は研究分野だけではなく、事務的な仕事にまで広まっていたのですが、操作出来る人はまだ主として技術職の人が中心でした。しかし、情報技術者は既に不足していましたし、コンピュータを活用した情報が企業や官庁のあらゆる仕事において利用される時代が近いと予想されていたことから、技術者の育成だけでなく、ビジネス現場などでも対応できる人材の育成が急務と考えられていたのです。

こうした社会的要請に対応して、本学部の教育理念は、それまでの専門にとらわれず、人間と社会についての問題を「情報」という視点から探求すると同時に、情報・メディア・コンピュータの理論的知識を習得しながら、コンピュータ・リテラシーやメディア・リテラシーをも身につけるというものでした。そして、文系・理系の枠を超えた入試制度を導入して広く将来性ある学生を受け入れ、それぞれの「夢」を実現するために、文系から理系までの多彩な講義科目を用意すると共に、「メディア情報モデル」「知識情報モデル」「組織情報モデル」という3パターンからなる履修モデルを提示して、自由にカリキュラムを設計できるようにしました。

旧文部省は1998年に学習指導要領を改訂して2002年から「情報」という科目が開始されていますが、これを構成する3つのカリキュラム体系が総合情報学部の3つのモデルに対応している点で、本学部の先進性がうかがえるでしょう。この結果、本学部で学んだ多くの卒業生たちが、IT関連企業はもちろん、製造業、金融・保険業、教育・マスコミ関連企業、公務員など多彩な社会の第一線で活躍しているのです。

2 総合情報学部の学びの特長

総合情報学部は、文系・理系という枠組みにとらわれず、人文・社会・自然科学分野を横断的に学べる文理総合型の学部です。多彩な学問領域におよぶ科目群から、興味・関心にあわせて自由に科目選択することで、現代社会のあらゆるテーマを多面的に探究可能な仕組みとなっています。さらに、将来の進路をイメージしやすいように、履修の指針として〈3つの系〉を提示しています。このような文系・理系の枠を超えた自在な学びを通して、確かな情報フルエンシー（利活用能力）を備え、情報の本質を見通す能力と柔軟な専門性を養います。

特長1：横断的に学べる（文系・理系の枠組みを超える幅広く多彩なカリキュラム）

文化、社会、ビジネス、ネットワーク、ソフトウェアなどあらゆる領域の問題を「情報」の視点から探究・解明します。そして、情報・メディア・コンピュータについての理論的知識だけでなく、人間と社会に対する広い視野と確かな情報フルエンシー（利活用能力）を養う実践的な教育を行っています。文系・理系という枠にとらわれることなく、幅広い視点から情報について学ぶことができます。

特長2：実践的に学べる（多彩な実習科目のなかから身につけたいスキルを段階的に習得）

「情報」に関する知識とあわせて、確かな情報フルエンシーを備えるための実践的な科目として、1年次から3年次まで多様な実習科目を配置。身につけたいスキルを基礎から段階的に習得できます。また、講義科目とも相互に関連する科目が配置されているので、学習効果を高めながら自然と興味が広がるように工夫されています。そして少人数で行う演習（ゼミナール）で、学びの成果を卒業論文（作品）として完成させます。

特長3：体系的に学べる（〈3つの系〉を指針に、自らの進路をイメージできる）

多彩な科目群から構成されている総合情報学部のカリキュラム。系統的かつ複合的な学びを実現するための、学習の指針が〈3つの系〉と呼ばれるカリキュラム体系です。「メディア情報系」「社会情報システム系」「コンピューティング系」という3つの方向性から、自分がめざす未来ビジョンに合わせて科目を選択しながら、必要に応じて〈系〉を複合させて学ぶ、自分のためのカリキュラムを組み立てることができます。